

2023年5月28日 ペンテコステ礼拝

説教題「求めなさい！」ルカによる福音書 11 章 5～10 節、13 節

主任牧師 加藤 誠

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」「まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる」(ルカによる福音書 11 章 9 節、13 節)

復活の主イエスが天に昇られてしまった時、弟子たちは呆然と天を見つめるほかありませんでした。「あの十字架の悲劇から見事に復活された主イエスが一緒にいてくださるからこそ、もう二度と十字架の失敗を繰り返すことなく、自分たちも頑張れる！」と、そう思っていた矢先に、肝心要の主イエスが天に昇られてしまったのです。彼らの周りには主イエスに敵対する人々があふれていました。「イエスさま、どうして居なくなってしまうのですか？」「イエスさまのことを憎む人たちがこんなに大勢いる中で、自分たちだけではとても無理…」。大きな失望に打ちのめされながら、弟子たちは天を見つめるほかありませんでした。

ただこの時、あの十字架の直後とは一つだけ違うことがありました。彼らは一つに集まり、祈り始めたのです。十字架の直後にはユダヤ人たちを恐れて、ただ部屋の中に閉じこもり、そこに座りこむことしかできなかった弟子たちでしたが、今回、彼らは祈り始めたのです。なぜなら「父の約束されたものを待ちなさい！」と、主イエスが約束してくださっていたからです。その約束を握りしめて、彼らは待ち続け、来る日も来る日も祈り続けました。その弟子たちにイースターから 50 日目の日曜日、聖霊が注がれ、イエス・キリストの証言者として立てられていったのです。

今年のペンテコステ委員会の働きは「聖霊ってなんだろう？」「よくわからないね」という会話から始まりました。正直に「わからない」と口にすることは大切なことです。神さまの前に「わからないなんて恥ずかしい」ということはありません。ちっぽけな私たちには分からないことだらけ。「わからない」から始めて良いのです。「わからないから教えてほしい、聴かせてほしい」で良いのです。「教会のみんなは聖霊ってどう思ってるんだろう？」「みんなが体験してきた聖霊って聴いてみたい」。聖霊について書かれている聖書の箇所をみんなで出し合って読んでみました。そして選ばれたのがルカ 11 章 9 節と 13 節でした。「求めなさい。そうすれば与えられる」「まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる」。

「私たちはほんとうに求めているだろうか？」「聖霊を心から求めているだろうか？」「二千年前、自分たちには何にもできるわけがないと天を仰ぐことしかできなかった弟子たちが、一つになって集まり祈り続けたように私たちは本気で求めているだろうか？」。そういう問いがペンテコステ委員の中に与えられたのでした。

今朝、ご一緒に読んだ箇所は、ルカ 11 章のはじめで「祈ることを教えてください」という弟子たちに主イエスが「主の祈り」を教えてくださいと語られた小さな譬え話です。真夜中に自分の家に訪ねてきた旅人にパン一つ差し出すことが出来な

い貧しい人の話です。この人は「自分の家にはパンが一つもないから隣りの家に行ってください」と断ることも出来たはずです。私たちは自分の心で受け止めきれないことに対しては、そうやって心のドアを閉めてシャットアウトすることが多いのではないのでしょうか。辛いこと、悲しいこと、そして自分に負担になることは抱えたくない。そういう私たちです。しかし譬え話の中のこの人は違いました。訪ねてきた旅人と一緒に外に出て、隣りの家に行き、そのドアと一緒に叩く人になりました。「自分には無理！」とドアを閉めてしまうのではなく、ドアを開けて隣り人と出会っていったのです。この時点で、聖霊の働きがすでにこの人に注がれていたものであり、この人は聖霊の導きに心開いて従ったのでした。けれども一緒に出かけて行った先で次の壁にぶち当たります。隣の家のドアは簡単には開かないのです。それどころか冷たい言葉をぶつけられます。「良いことをしているのに、どうして?」「世間は冷たいな」。諦めが心の中に広がっていきます。しかしそのときに主イエスが言われるのです。「大丈夫。諦めないで。求め続け、捜し続け、叩き続けなさい。天の神さまは必ず与えてくださり、道を開いてくださり、あなたは見つけることが出来る。なぜなら、天の神さまは子どもでもあるあなたがたに必ず聖霊を与えてくださるから」と。この譬え話には、毎日この世界の中で失望を重ね、自分自身にも諦めかけ、神さまに祈ることを忘れてしまっている私たちに対する、イエスさまの伴いと励ましが込められています。「この世界を生きるって簡単じゃない。思ったようにはなかなかドアが開かない。なんて人間は冷たいのだろうと失望することばかり。でも、わたしもあなたたちと一緒に歩む。だから諦めずに祈り続けよう。神さまは必ず聖霊を注いで、私たちを励ましてくださるから」と。

私たちは本気で神さまに祈り求めているのでしょうか。「この世界の中で主イエスと共に、そして隣り人と共に歩ませてください」と。自分の貧しさが分かっていると私たちは求めません。自分の力で何とかなると思っている間は、聖霊の働きを体験することはできないのです。「自分だけの力では何もできない」「隣り人を助けることすらできない」。自分の貧しさを知る者だけが本気で求める者とされるのです。その意味で私たちは本気で聖霊の働きを求めて祈っているのでしょうか。

聖霊にはさまざまな働きがありますが、その第一は私たちの心の窓を神に向けて開いてくれる働きです。神の深い愛に向けて私たちの心の窓が開かれる時、私たちは自分の罪を知らされます。神さまに愛されたいながら、どれだけ神さまに背を向けてきたか。隣り人の声をすぐ間近に聴きながら、どれだけ耳をふさいできたか。自分の愛の貧しさ、小ささを知らされます。それが聖霊の第一の働きです。しかし同時に、聖霊は自らの罪を知らされた者に十字架の主の愛と赦しと恵みを注いでくださいます。私たちの心の窓を神さまに向けて開き、私たちの罪を示すと同時に、その私たちをなお愛してくださる十字架の主の愛を教えてください。

その聖霊の第一の働きをまず求めていきましょう。そして、主イエスの愛を受け取り、主イエスと共にこの世界を生きていく信仰をいただいきたいのです。